

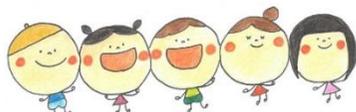


むぎのほ

三二

かいかんだより

2021年 1月 第251号



子ども家庭支援センター麦の穂

中津川市千旦林 1468-7 地域交流ホーム 麦の穂会館内

TEL 0573 (68) 6858 FAX 0573 (64) 8139



令和三年
丑

新春のおよろこび 申すまじきまじき



2021年新しい年を迎えました。
新しい生活スタイルにはなかなか慣れないところ
もありますが、子どもとの“おうち時間”のんびり
過ごすのも大事なひと時かもしれませんね。
新しい年が皆様にとって、良い年になりますように。

○子ども家庭支援センター麦の穂を
ご利用下さい○

- ✿子どもと家庭に関する電話・訪問・来所相談
- ✿里親支援に関する事業、里子・里親の支援
- ✿地域支援事業・健全育成事業
- ✿子育てサークル活動への支援、居場所提供
- ✿講演会・学習会の企画・実施など

幼児期に考える力と相手に伝える能力を 少しでも身につけ社会的自立する育て方

これからの**大学入試は知識偏重から思考力重視になります**。今までのような知識を多く詰め込んでいれば合格するという時代でなく〈どうして?〉{何故選んだの}といった問いかけに対して、自分の考えていることを**言葉で相手に伝える**ことが求められます。そして「なぜか」を考える生き方を持って社会で生きていく力が求められます。家庭での育て方や幼児教育を見直さなければ簡単に身につけません。今までの育て方の反省は、**親や先生が言葉を頭ごなしに〇〇だから覚えなさい、という一方的な教育や姿勢が多くありました**。子どもは静かに黙って聞く姿勢でした。大学でも教授の一方的な講義で知識を持たせればよいという教育が時々見られました。しかし、社会的に自立して世界の中で仕事をするにあたって自分の考えを持つことと相手に解りやすく丁寧に優しく**伝える力**が要求されている中で苦手な人が見られます。

社会的自立のため体験する実習生には、現場で**問いかけのうまい先生**を見つけて真似しなさいと伝えてオリエンテーションをしています。社会の中ですぐに答えを与える先生は多くいます。そのような中で答えをすぐに言わないで「問いかけ」の上手な先生がいっぱいいます。「次どうすると折り紙半分になるかな」「どうしたら指と指の間きれいになるかな」「隣の〇〇ちゃんの動きを見るとどうなるかな」「どうやって鉄棒を持ったら回るかな」といった自分の考えを言葉として出させる問いかけが最も大切になります。まず間違っていないので**自分の考えを言葉で表現すること**です。しかし、日本の家庭でのしつけや幼児教育は、親や先生の**言葉だけを伝えて覚えれば頭のいい子が育つという姿勢・態度が多くありました**。大学で講義をしている時も最後まで黙って聞いている雰囲気や聴くだけの場や時が教室にあふれている時代が続いていました。家庭での読み聞かせでも静かに聞いている育て方が一般的でした。言葉のやり取りが少なく**子どもの考えを言葉にしなくてもいい環境が見られました**。また、**学校や家庭で〈なぜ思う〉「どうして」という質問が少ない実態**もあります。「どうして」と問いかけるとびっくりする学生や大人がいて、自分の考えを自分で整理して深く考える時を与えられて育っていないことが見られます。

何故かを瞬時に解りやすく言葉にして表現すること、踊りの指導で「お母さん座りしているとすぐ立てないよ」。**なぜかという理由を考えることで正しい情報を持つ癖・自分で考え、社会的自立で重要な言葉の表現力が身につく社会に出てから役に立つ資質と能力に結び付きます**。

